

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和3年3月17日

提出区分	実績	整理番号	2	課題区分	C			
横断的な課題	上伊那地域の将来を担うひとつづくり							
地域重点政策	伊那谷の未来を担うひとつづくり					上伊那地域振興局		
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	企画振興課		
事業名	若者人材育成事業(U・ターン就職促進)				電話	0265-76-6801		
					E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>		
事業概要等	目的 (目指す姿)	地元就職について保護者や学生の理解を深め、Uターン就職の促進を図るため、地域の企業を知る機会を提供する。						
	現状と課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、地方での就職希望者が増えると言われている一方、新たな就職活動形態としてオンライン環境への対応が求められるようになった。採用意欲が引続き高い地域であり、地元就職について理解を深めるための手段を確保する必要があるものの、オンライン環境への対応では、地元企業の中にはノウハウや予算がなく出遅れている企業もある。 また、県外への進学率が高く、Uターン就職する若者が少ない傾向にある。県外進学により学生と地域とのつながりが薄れがちになるため、学生への情報提供体制を充実させる必要がある。						
	内容 (変更後の内容)	○ オンライン企業説明会「上伊那企業web説明会スーパーウィーク」の開催(R2.7.13~7.17) 伊那職業安定協会と連携し、1週間程度の期間内に地元企業によるオンライン説明会を集中して開催し、zoomにより大学生を中心とした学生に向けて配信。 ○ LINE連絡先確保事業 県外に進学した学生とのつながり維持を図るため、学生に地元就職イベント等の情報等を効果的に提供できるよう、県外進学後の連絡先登録を促すリーフレットを作成し、卒業前の高校生に配布。						
事業期間	令和2年6月			～	令和3年3月			
事業費等	(単位:円)							
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考				
	オンライン企業説明会	説明会の実施、広報	448,800					
	LINE連絡先確保	連絡先登録リーフレットの配布	64,350					
	合計		513,150					
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況			
	オンライン説明会参加学生のべ数		100名	347名	● 達成			
					○ 一部達成			
					○ 未達成			
事業実績・成果	○ オンライン企業説明会の開催 伊那職業安定協会と連携し、「上伊那企業web説明会スーパーウィーク」を7月13日から17日の5日間実施した。オンライン会議(zoom)に併せ、伊那ケーブルテレビジョンでの生放送をおこなったことにより、管内市町村でのテレビ視聴も可能となった。企業25社の説明の他、業界毎の代表による懇談時間を設け、学生の就活に対する不安点を払拭する試みを行い、オンライン会議はのべ347名の参加となった。また、オンラインでは少ないとされる質問も、コーディネーターとなる司会者を立てたことにより引き出され、のべ9件の質問が寄せられた。 ○ LINE連絡先確保事業 県外進学後の連絡先登録を促すリーフレットを作成。管内10高校を訪問し、卒業前の高校生に配布を依頼するとともに、就活イベントでの配布をおこなった。2月末時点の登録者数は150名となった。							
今後の方向性	関係団体等と連携して企業動向や学生の実態を把握し、若者人材確保に繋がるよう効果的な取組を計画・継続していきたい。							

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和3年3月25日

提出区分	実績	整理番号	3	課題区分	C		
横断的な課題	リニア中央新幹線の開業を見据えた地域づくり						
地域重点政策	リニア開業を見据えた 伊那谷 (INA Valley) づくり					上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	企画振興課	
事業名	高速バス利用促進実証実験事業				電話	0265-76-6801	
					E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>	
事業概要等	目的 (目指す姿)	みすずハイウェイバス(高速バス 飯田ー長野線)の利用促進を図る。					
	現状と課題	みすずハイウェイバスの上伊那地域の停留所は、市街地から離れた高速道路上にあるため、停留所とのアクセス手段がネックとなり、利用者数が伸び悩む一因となっている。 2027年のリニア中央新幹線開業を7年後に控え、南北軸の公共交通の維持・確保は、重要な課題であり、現在、新型コロナウイルス感染症の影響により急激に利用者が減少していることから、停留所までのアクセス手段を確保し、高速バスに乗車するきっかけを提供し、利用者を増やす取組が必要である。					
	内容 (変更後の内容)	○ みすずハイウェイバスアクセス確保実証実験(R2.7.13～R2.3.15) みすずハイウェイバス利用者の停留所(中央道伊那インター、中央道駒ヶ根インター及び中央道箕輪)とのアクセス手段の企画及び提供に係る実証実験を行い、効果を検証					
	事業期間	令和2年7月			～	令和3年3月	
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	アクセス確保実証実験事業	高速バス停留所とのアクセス確保実証実験	999,900				
	合計		999,900				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	アクセス確保数昨年度実績以上		500回	49回	○ 達成		
					○ 一部達成		
					● 未達成		
事業実績・成果	【実績】 ○みすずハイウェイバス利用者への停留所(中央道伊那インター及び中央道駒ヶ根インターに加え、今年度は中央道箕輪を追加)とのアクセス手段の企画及び提供に係る実証実験を伊那バスに委託し、乗車券購入者に高速バス停とのアクセスに使えるタクシー券を昨年度より増額し片道あたり2,000円(R元年度は1,500円)とした上で、配布する実証実験を行い、期間中のべ49回、54人にアクセス手段を提供した。						
	【成果】 ○新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、利用者数(アクセス確保数)は前年度(318回)より大幅に減少したが、昨年度及び本年度実施した利用者アンケート及びバス、タクシー事業者への聞き取り等により、市街地から離れた高速バス停留所までのアクセス手段の確保が、高速バスの利用促進において有効な手段の一つであることが分かった。						
今後の方向性	みすずハイウェイバスの認知度の向上及び若年層等の新規利用者獲得を図り、同路線の維持・確保に努めるため、引き続き事業者と連携した取組を進める必要がある。						

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和3年3月29日

提出区分	実績	整理番号	5	課題区分	C			
横断的な課題	上伊那地域の将来を担うひとつづくり							
地域重点政策	"伊那谷らしく"豊かで活力に満ちた暮らしづくり						上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	企画振興課、上伊那農業農村支援センター		
事業名	農業を「関わりしろ」としたつながり人口創出実証実験事業				電話	0265-76-6801、0265-76-6842		
					E-mail	kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp kamiina-aec@pref.nagano.lg.jp		
事業概要等	目的 (目指す姿)	地域と協働で特産化を進める農産物等を「関わりしろ」としたつながり人口を創出する。						
	現状と課題	中山間地域では、人口減少・少子高齢化が進み、地域づくりの担い手不足が深刻な問題となっている。課題解決に向け、市町村では移住・交流など、つながり人口を増やすための様々な取組を行っているが、地域の核となる魅力(特産物)がないこと、情報発信手法等についてのノウハウが不足していることなどから、必ずしも十分な結果に繋がっていない。						
	内容 (変更後の内容)	<p>辰野町川島地区をモデル地区とし、農産物を柱としてつながり人口を創出する効果的な手法を検証した。</p> <p>○川島ソバの特産化(上伊那農業農村支援センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二期作の導入による収穫量の確保に向けた調査研究の実施。</li> <li>地元農家を対象とした研修会や食味審査会等の開催。</li> </ul> <p>ソバ二期作研修会(R2.4.22, R2.6.26, R2.10.2, R3.1.20, R3.2.25)</p> <p>川島ソバ食味審査会(R2.9.3)</p> <p>ソバ活用講座(R3.3.1)</p> <p>○つながり人口創出実証実験の委託(企画振興課)</p> <p>地域の課題(困りごと)を「関わりしろ」として可視化し、都市住民等との交流に結びつけ、つながり人口を創出するための効果的な手法の企画及びその効果を検証するための実証実験を実施。(R2.7.27～R3.3.16)</p>						
	事業期間	令和2年5月			～	令和3年3月		
事業費等	(単位:円)							
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考				
	川島ソバ特産化事業	二期作に向けた調査研究の実施研修会、食味審査会、ソバ活用講座	263,539					
	つながり人口創出実証実験事業	地域の課題を「関わりしろ」としたつながり人口創出の実証実験	1,150,000					
	合計		1,413,539					
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況			
	つながり人口創出実証実験により創出されるつながり人口		新規つながり人口創出30人	新規つながり人口創出31人	● 達成			
					○ 一部達成			
					○ 未達成			
事業実績・成果	○川島ソバの特産化(上伊那農業農村支援センター)							
	二期作の導入により最大2.3倍量の収穫量を確保できた。また、研修会や検討会議(web会議)を通じて都市部の若者と地元農家が交流するとともに、地域の担い手や特産物に係る課題を共有することにより、新たなつながり人口を創出することができた。							
今後の方向性	○つながり人口創出実証実験の委託(企画振興課)							
	地域の課題を明確化し、web媒体を通じて情報発信するとともに、モニターツアーを実施することにより、新たなつながり人口を創出することができた。							
今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>つながり人口と連携して川島ソバのブランド化に取り組み、本年創出したつながりをさらに強化する。</li> <li>本年創出したつながり人口と連携した取組により、つながり人口の継続的な受入体制を構築する。</li> </ul>						

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和2年11月30日

上伊那地域振興局

提出区分	実績	整理番号	6	課題区分	C	
横断的な課題	先端技術等を活用した地域活力の創出					
地域重点政策	"伊那谷らしく"豊かで活力に満ちた暮らしづくり					
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	林務課
事業名	地域の先端技術産業を学ぶ体験学習事業				電話	0265-76-6825
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp">kamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp</a>	
事業概要等	目的 (目指す姿)	林業分野におけるICTを活用した先端技術を体験することにより、若者の林業への就業促進を図る。				
	現状と課題	林業が「人手不足」と言われ始めて久しい。これまでの森林調査は、広大な面積のうちから代表的な林分に標準地を設定し、樹種、樹高、胸高直径を人の手によって測るなど、多くの手間と日数をかけて行われていた。先端技術では、ドローンを活用して樹種等を把握することが可能になり、森林調査は労力をあまりかけず短時間で実施できるようになってきている。				
	内容 (変更後の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前調査の実施 伊那市内の私有林で、事前にドローンによる調査を行う。</li> <li>○ ドローンデモンストレーションの開催 次世代を担う上伊那農業高等学校の生徒を対象に、ICT、ドローンを活用した森林調査体験を行うとともに、上伊那森林組合を講師に森林資源調査手法の新旧比較、森林整備の重要性ややりがいについての講義等を実施。</li> </ul>				
	事業期間	令和2年9月		～	令和2年11月	
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	ドローン森林調査体験委託事業	事前調査、解析、デモンストレーションなど	301,290			
	合計		301,290			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	アンケート結果で就職先や進学先として、「林業や木材関係を検討したい」との回答		50%以上	55%	<input checked="" type="radio"/> 達成 <input type="radio"/> 一部達成 <input type="radio"/> 未達成	
事業実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業実績 上伊那森林組合ドローン活用研究チームにより、事前調査と解析を実施。11月19日に上伊那農業高等学校コミュニティデザイン科里山コース20名がICT技術を活用した森林調査を体験した。</li> <li>○ 事業成果 今年は、従来の森林調査法による調査・解析を授業で行い、その後に最新の技術を体験したため、従来の調査法の大変さと、ICT技術を活用した調査の効率の高さをより深く実感することができた。 また、参加者に対するアンケートでは、20名中11名が林業・木材関係の仕事に就くことを考える余地があると回答し、若者の林業への就職に対する意識を高めるきっかけとなった。</li> </ul>					
	今後の方向性	<p>高校生の期待に応えるためにも、体験学習は継続していく必要がある。他事業(間伐体験)と同時期に行うことにより、相乗効果が期待できる。</p>				



地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和3年3月17日

提出区分	実績	整理番号	9	課題区分	C			
横断的な課題	上伊那地域の将来を担うひとつづくり							
地域重点政策	"伊那谷らしく"豊かで活力に満ちた暮らしづくり						上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	商工観光課		
事業名	INA Valley 産業支援ネットワーク活動推進事業 (ADL支援産業等創出促進事業)				電話	0265-76-6829		
					E-mail	<a href="mailto:kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp">kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp</a>		
事業概要等	目的 (目指す姿)	上伊那地域の産業支援機関等の協力・連携体制により地域企業の稼ぐ力向上を支援するとともに、長野県ものづくり産業振興戦略プランに位置付ける当地域のADL(日常生活動作)支援産業の集積形成を図る。						
	現状と課題	ものづくり産業振興戦略プランに基づくADL支援産業の集積形成を目指す上で、地域企業が必要とする現場ニーズや知見を補完する仕組みが不足している。 平成30年3月に設立した「INA Valley 産業支援ネットワーク」の実効性ある連携の活用により、企業の課題解決や新たな産業創出を支援する必要がある。						
	内容 (変更後の内容)	「INA Valley 産業支援ネットワーク」の会員(所属機関)相互の連携により、ADL支援等の次世代産業創出につながる企業のイノベーション促進を支援するため、以下の事業を実施する。 ○情報交換会の開催(R2.10.21、R2.12.3) 大学等の研究や産業支援機関等の取組を紹介し、会員との関係を構築 ○ADL支援製品創出勉強会の開催(R3.2.18) 前年度スタートした勉強会をものづくりの視点で深掘りし、福祉・看護現場のニーズや企業が求めるノウハウ等を学習する機会を設け、企業の固有技術向上及び新たなADL支援製品の創出に繋げる。 ○地域として取り組む新規プロジェクトの創出を促進 ADL支援製品創出勉強会の参加企業等による新製品創出などの取組に対し、会員間の連携により支援の提案や地域内企業とのマッチング等を実施						
	事業期間	令和2年10月			～	令和3年3月		
事業費等	(単位:円)							
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考				
	ネットワーク活動推進事業	情報交換会及び勉強会の開催	100,000					
	合計		100,000					
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況			
	情報交換会及び勉強会参加者		のべ50名以上	52	● 達成			
					○ 一部達成			
					○ 未達成			
事業実績・成果	【実績】情報交換会及び勉強会を通じて、会員相互の関係構築やADL支援製品創出の取組を実施。 ○情報交換会(2回)・DXを活用した新たなビジネス・モデルの展開(R2.10.21、11団体16名参加) ・IoT活用による社会課題等解決に向けた新たなビジネス・モデル支援(R2.12.3、10団体16名参加) ○勉強会(1回)・ADL支援・介護製品開発・普及セミナー・意見交換会(R3.2.18、15団体20名参加) 【成果】 ・情報交換会、勉強会を通じて、新技術の市場動向の把握や会員と地域企業との関係構築、又、ADL製品開発の課題発掘を図り、製品創出に向けた取組をすることができた。							
今後の方向性	本ネットワークの実効性ある連携活用により、現場ニーズや企業の具体的な課題解決を支援し、新たな製品・産業創出に向けた取組等を進める。							

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和3年3月18日

提出区分	実績	整理番号	10	課題区分	C	
横断的な課題	上伊那地域の将来を担うひとづくり					
地域重点政策	伊那谷の未来を担う人づくり					
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	南信工科短期大学校
事業名	地域産業の未来を拓く人材育成推進事業				電話	0265-71-5051
					E-mail	<a href="mailto:nanshinkotan@pref.nagano.lg.jp">nanshinkotan@pref.nagano.lg.jp</a>
事業概要等	目的 (目指す姿)	上伊那地域の高等教育機関と連携し、地域産業の未来を拓く人材を育成・確保する。				
	現状と課題	地域産業を支える人材の育成・確保を担う南信工科短期大学校では、受験者数が募集定員を下回るなど、地域の高校生等に必ずしも効果的に魅力を発信できていない。高校生等に、地元での学びや就職を考える機会を広く提供し、地域の期待に応える産業人材の育成・確保を推進する必要がある。				
	内容 (変更後の内容)	○工業高校等をターゲットとした南信工科短期大学校のPR(R2.10.30) 南信工科短期大学校に入校実績がある中南信地域の工業高校等の学生(松本工業高校生)を対象に、貸し切りバスで学校見学会に招待し、在校生との交流等をおこなえ、同校の魅力を発信。 南信工科短期大学校の知名度アップを図るため、PRグッズ(エコバッグ)を作成し、キャンパス見学会(オープンキャンパス)の参加者等に配布。 ○若手社員の職業能力開発に関する意識調査(R3.1月) 製造業に勤務する若手社員の進路選択やキャリア開発の考え方を把握し、効果的な情報発信に向けた広報戦略の基礎資料とした。				
	事業期間	令和2年9月		～	令和3年3月	
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容		計画(実績)額	備考	
	キャンパス見学会の開催等	高校生を対象としたキャンパス見学会の開催		84,380		
	学校PRグッズの作成	名入りPRグッズの作成		393,783		
	若手社員の職業能力開発に関する聞き取り調査	アンケートおよびヒアリング調査		275,000		
	合計		753,163			
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況
	キャンパス見学会の参加者人数			40名以上	93名	● 達成
	アンケートおよびヒアリング人数			30名以上	64名	○ 一部達成
						○ 未達成
事業実績・成果	○松本工業高校の生徒(1年生32名)をバスを借り上げて学校に招聘しキャンパスを見学してもらい、学校の魅力をPRすることができた。 ○キャンパス見学会(オープンキャンパス)を4回開催し、のべ93名が学校を訪れ、学校の魅力をPRすることができた。また、参加者にはエコバッグ等の名入りPRグッズを配布し、知名度の向上につなげた。 参加者数 のべ93名 (R2.6.13:14名 R2.8.2:51名 R2.10.3:19名 R3.3.6:9名) ○学校の魅力発信や学生確保にあたり、先進的な取組みを行っている群馬県の「共愛学園前橋国際大学」を視察し、応募者を増加させた取組み等の手法を調査し、南信工科短期大学校の今後の取組の参考とすることができた。 ○若手社員に対するヒアリングではチラシやポスター掲示など地域に根差した告知が有効という想定と異なる意見をを得ることができた。また、アンケートでは保護者や先生への働きかけの重要性を再確認できた。					
今後の方向性	今後も南信工科短期大学校をはじめとした高等教育機関の認知度・魅力向上のための取組などを通じて、地域の期待に応える産業人材の育成・確保を推進する必要がある。					

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和3年2月12日

提出区分	実績	整理番号	11	課題区分	C
横断的な課題	リニア中央新幹線の開業を見据えた地域づくり				
地域重点政策	二つのアルプスを活かした交流圏域づくり				

上伊那地域振興局

実施機関	上伊那地域振興局	担当課	所属	商工観光課
事業名	令和2年度 上伊那地域ユニバーサルツーリズム推進事業		電話	0265-76-6832
			E-mail	<a href="mailto:kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp">kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp</a>

事業概要等	目的 (目指す姿)	観光関係者がユニバーサルツーリズムを意識することにより地域全体のおもてなし力の底上げし、誰もが気兼ねなく旅ができる観光地としての伊那谷を目指す。
	現状と課題	配慮が必要な高齢者や障がい者を対象とした誘客のニーズを把握しているものの、観光関係者にユニバーサルツーリズムに関するノウハウが乏しく、誘客を躊躇するケースが多い。地域のユニバーサルツーリズム人材を育成し、ユニバーサルツーリズムを意識した誘客を推進する必要がある。
	内容 (変更後の内容)	観光関係者のユニバーサルツーリズムに対する機運、ノウハウ等を高めるため、ユニバーサルツーリズム推進事業を実施する。 ○ユニバーサルツーリズムに関するセミナーの開催 ユニバーサルツーリズムに関する関係者の理解促進、意識醸成を目的としたセミナーを開催する。 ○ユニバーサルツーリズム模擬体験会の開催 観光関係者を対象に器具等を使用したユニバーサルツーリズム模擬体験会を開催し、意識向上、人材育成を図る。 ※セミナー、模擬体験会の実施にあたっては、新型コロナウイルスにより重症化しやすい高齢者等に代役を立てるなど、感染対策に十分配慮する。
	事業期間	令和2年10月 ~ 令和3年1月

(単位:円)

事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考
ユニバーサルツーリズム推進事業	ユニバーサルツーリズムセミナー、疑似体験会の実施	1,394,030	
合計		1,394,030	

指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	ユニバーサルツーリズムセミナー	参加者	50人以上	52人	<input checked="" type="radio"/> 達成 <input type="radio"/> 一部達成 <input type="radio"/> 未達成
	ユニバーサルツーリズム実地模擬体験会	参加者	30人以上	35人	

事業実績・成果	<p>駒ヶ根高原早太郎温泉「ホテルやまぶき」及び「光前寺」にて、「ユニバーサルツーリズム推進フォーラムin伊那谷」(11/25)を開催した。</p> <p>ユニバーサルツーリズムに関する基調講演のほか、車椅子利用者、高齢者、視覚障がい者の目線を体験する「疑似体験(フィールドワーク)」を実施し、観光事業者、旅行業関係者、行政など52名(うち疑似体験35名)の参加があった。</p> <p>実施後のアンケート(回収数30)では、「大変参考になった」「参考になった」が基調講演・疑似体験ともに90%以上と好評であり、「知識だけでなく「体験」したというのは非常に大きい」「サービス活用を考えていきたい」と言った反応が見られた。</p>
---------	--

今後の方向性	今後もDMOが中心となり実施する事業と連携し、アフターコロナにおいて伊那谷が「選ばれる観光地」となるよう、ユニバーサルツーリズムの理解促進・地域の「おもてなし力向上」を推進する。
--------	---

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和3年3月31日

提出区分	実績	整理番号	12	課題区分	C		
横断的な課題	リニア中央新幹線の開業を見据えた地域づくり						
地域重点政策	二つのアルプスを活かした交流圏域づくり					上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	商工観光課	
事業名	e-BIKEを活用した三次交通実証実験事業				電話	0265-76-6832	
					E-mail	<a href="mailto:kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp">kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp</a>	
事業概要等	目的 (目指す姿)	リニア中央新幹線の開業を見据え、レンタル折り畳みe-BIKEを三次交通手段とする伊那谷の魅力なサイクルツーリズムを構築する。					
	現状と課題	南北にのびる伊那谷においてサイクルツーリズムを普及させるためには、観光客が気軽に楽しめるレンタルサイクルの乗り捨て環境整備が有効な手段の一つであるが、自転車回収ルートの構築など、事業者の参入、普及にあたってのハードルが高い。					
	内容 (変更後の内容)	リニア時代の三次交通を見据え、乗り捨てた折り畳み式e-BIKEを輪行バックに入れて宅配便で配送する仕組みを取り入れた上伊那版サイクルツーリズムの実証実験を行う。 ○モデルコースのモニターツアーの開催(R2.12.18 R3.1.26 R3.2.4 R3.2.22 R3.3.4 R3.3.9 計6回) 折り畳み式e-BIKEと輪行バック、宅配便を活用した乗り捨て型モデルサイクルコースのモニターツアーを開催し、課題等を整理する。 ○e-BIKE比較走行の実施(上記モニターツアーと同時開催) 通常のe-BIKEと折り畳み式e-BIKEの比較走行を実施し、折り畳み式e-BIKEの有用性や課題を整理する。 ○ネットワークづくりに向けた意見交換会の実施					
事業期間	令和2年11月			～	令和3年3月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	e-BIKEを活用した三次交通実証実験事業	モデルコースモニターツアー及び比較走行会の開催等	1,947,539				
	合計		1,947,539				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	モニターツアー及び試走会でのアンケート回答者		60人以上	延べ66人	● 達成		
					○ 一部達成		
					○ 未達成		
事業実績・成果	コロナの影響で、当初の予定通りのモニターツアーの集客及び比較走行会はできなかったが、モニターツアーの開催数を増やし、モニターツアーの参加者に同時に比較走行を行ってもらうことで目標以上のアンケートを収集することができた。輪行に関しては現状の折り畳みE-Bikeでは重すぎるという意見が多かった。乗り捨てに関して取扱店舗の問題や配送の問題、折り畳みE-Bikeの重量の問題など様々な課題が浮き彫りとなった。今後は折り畳みE-Bikeの軽量化や、折り畳み方法の簡易化など自転車の進歩が期待されるころではあるが、地域内乗り捨て拠点の整備などを進めていく必要があることが地域内事業者に認識された。折り畳みE-Bike自体の性能は通常のE-Bikeと同程度の性能があること、それ以上にビギナーには気軽に乗れることが地域の事業者を理解された。						
今後の方向性	伊那谷観光局のアドベンチャーツーリズムの部会で進めていくことになるが、地域内乗り捨て拠点整備やガイド養成など行い、サイクリストや自転車を利用して観光する人の受け入れ態勢を整備していく。						